様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月　 ６ 日現在

機関番号：３２６５１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2013～2015
課題番号：２５６７０２５０

研究課題名（和文）外国人模擬患者を全国医学部の面接技能教育に活用する方法の研究

研究課題名（英文）Expanding the use of English-speaking simulated patients in Japanese medical schools

研究代表者
芦田　ルリ（Ashida, Ruri）

東京慈恵会医科大学・医学部・准教授

研究者番号：１０５７３１９９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、全国の医学部に外国人模擬患者English-speaking simulated patient (ESSP)を活用した教育を普及することを目指した。英語OSCEや医療面接実習を各大学で行い、その効果と可能性を学会等で発表することによってESSP を活用した教育の普及を図った。またシナリオやフィードバック等教材の効果や問題点を明らかにした。外国人模擬患者会を設立し、各地に在住するESSPを近隣の大学が活用できる基盤を構築した。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to expand the use of English-speaking simulated patients (ESSPs) in education at medical schools throughout Japan. We conducted English Objective Structured Clinical Examinations (OSCEs) or history-taking practices at various universities and, by presenting their effects and potentials, spread the use of ESSPs in education. We also clarified the efficiency and problems of the scenarios, feedback, and other materials. The association of ESSPs was established to provide a basis for universities to work with ESSPs residing nearby.

研究分野：医療英語コミュニケーション

キーワード：外国人模擬患者　英語医療面接実習　英語OSCE　患者・医師コミュニケーション　異文化理解　プロフェッショナリズム　外国人模擬患者養成・普及

１．研究開始当初の背景

(1)　医療の国際化

急速に進む医療の国際化の中、医療英語コミュニケーションスキルの伸長は、海外でのキャリアを目指す学生にとってはもちろんのこと、国内で臨床に携わる者にとっても重要になってきている。2012 年末、在留外国人は約 203 万人で、47 都道府県すべてに外国人が在住している。訪日外客数は 835 万 8 千人を超え、2011 年以降、医療ビザで来日する外国人も増加している。英語を母語としない者も多いが、医療現場でのコミュニケーションは英語に頼るところが大きい。しかし、医療英語コミュニケーションスキルの重要性は論じ始められながらも、臨床に即した英語での医療面接実習を実際に導入している大学は少ない。

(2)　SP の活用状況

2005 年に共用試験 OSCE（Objective Structured Clinical Examination）が開始されてからは各大学で日本人模擬患者（SP）参加型の実習が導入されてきた。しかし英語の医療面接に関しては、実習を行っている大学においても殆どが学生同士のロール・プレイングで行われ、外国人模擬患者 English-speaking Simulated Patient(ESSP) を活用した臨床に即した実習は殆ど行われていない。

(3)　外国人模擬患者(ESSP)の現状

2012 年より、研究代表者は数人の ESSP の養成を始め、3 大学で英語医療面接実習を行ってきた。学生は「非常によい経験だった」と述べ、実習の効果が示唆されたが、ESSP 活用の効果と可能性は全国の医学部ではまだ周知されていない。そして安定的継続的な実習を多くの大学で行えるほど ESSP は養成できていない。

２．研究の目的

本研究は ESSP を活用した教育を全国医学部に普及するための方法を探るため以下の点を明らかにすることを目指した。

(1)　外国人模擬患者会を設立し、ESSP を活用した教育が多くの医学部で導入可能になる方法を明らかにする。

(2)　全国医学部での ESSP を活用した英語医療面接実習の現状を明らかにする。

(3)　ESSP を活用した英語 OSCE や医療面接実習を各地で行い、シナリオやフィードバック等教材の効果や問題点を明らかにする。

３．研究の方法

(1)　ESSP の募集と養成

機縁法で多くの ESSP の募集･養成を行い、1 回 2－9 名の ESSP を活用しながら実習を行った。

(2)　ESSP を活用した実習の継続と普及

研究開始前から行っていた 3 大学での実習継続に加えて、要請を受けた他 4 大学でも実習を開始し、毎年継続的に行った。年間 15 回以上の英語 OSCE または医療面接実習を各大学で行った。単発的に要請があって行った大学においても、その後大学独自に実習を継続している。ワークショップやシンポジウム・学会発表で ESSP を活用した教育の普及を図った。

(3)　外国人模擬患者会の設立

海外での模擬患者グループの養成や運営方法を研究し、トレーニングや謝金等のシステムを整備し、外国人模擬患者会を設立した。

(4)　全国医学部での ESSP 活用状況の調査

質問紙を用いて、全国の医学部での ESSP を活用した医療面接実習の状況を調査した。

(5)　シナリオやフィードバックの方法等の検討

医療面接実習後、使用したシナリオやフィードバックの方法等を検討し改良を行った。また新しいシナリオを作成した。

４．研究成果

(1)　ESSP を活用した医療面接実習の普及

英語 OSCE や医療面接実習が学生のモチベーション向上等に及ぼす効果をワークショップや学会で発表した（図１）。それによって興味を示す大学が増え、2013-2015 年の研究期間内に各地 11 大学で養成した ESSP を活用して英語 OSCE や医療面接実習を行った(図 2)。ワークショップに参加した大学の中には、その後独自の ESSP を募集して教育を開始した大学もあった。

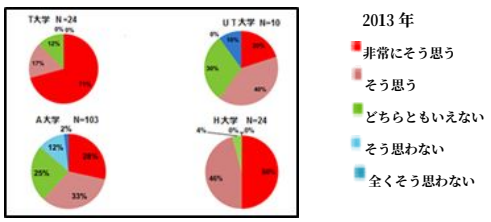

図１．英語コミュニケーション学習へのモチベーションが上がった。

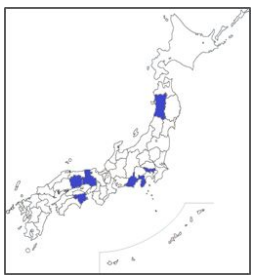

図 2. 医療面接を行った大学の分布図

(2) 外国人模擬患者会の設立

Japan Association of Simulated Patients in English (JASPE)

2013年研究開始当初ESSPは4名だったが、2016年研究終了時には約30名に増えた。年6-7回のトレーニングを行い、患者の役作りやフィードバックの練習を行った。ESSPはアメリカ・イギリス・イタリア・インド・オーストラリア・中国・ドイツ・ニュージーランド等の国々からの外国人で、殆どが関東近郊に在住しているが、関西に3名、浜松と秋田に各2名、福岡に1名在住し、少しずつではあるが全国にESSPを養成することができた。これによって、浜松の大学での実習には浜松の ESSP を活用し、関西近辺の大学での実習には関西のESSPを活用する等、東京からESSPを派遣する交通費の負担を軽減することができるようになった(図3)。

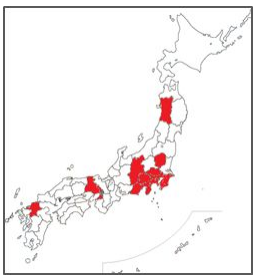

図3. ESSP居住地の分布図

(3) 外国人模擬患会のホームページ構築

医療面接の基本的表現、有用性の高い基本的なシナリオ、および ESSP 養成のための情報を掲載。常時 ESSP の新規登録もできる基盤が構築された。

(4) 全国医学部でのESSP活用の状況把握

ESSP を活用した英語 OSCE や医療面接を実施している大学はまだ全体の3分の1以下であるが、年々増加の傾向にある。ESSPは日本人 SP のように一般人から募集し養成しているのではなく、自分の大学にいる英語教員等を活用しているところが多い。トレーニングを受けた ESSP が近隣に在住していれば活用したいとの意向を示す大学も少なくない。外国人模擬患者会の設立とともに全国各地にESSPが増えているので、今後近隣の大学がトレーニングを受けた ESSP を活用していくことが期待できる。

5．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計3件）

① Ashida R, Kuramoto CD, Fukuda K: Training clinical students through interviews with English-speaking simulated patients and giving case presentations to clinicians. Journal of Medical English Education、査読有、14(3)、2015、117-121

② Kuramoto C, Ashida R, Otaki J: English-speaking SPs in Medical Education: The Motivation Factor、医学教育、査読有、45(6)、2014、421－423

③ McMahon GT, Ashida R. The Checklist Mentality. Hektoen International--A Journal of Medical Humanities、査読有、6(2)、2014、online

〔学会発表〕（計14件）

① 芦田ルリ、倉本クリスティーン、福田国彦、英語での医療面接と臨床医への症例プレゼンテーション―外国人模擬患者と臨床医による実習の試み、第47回医学教育学会、平成27年7月24日、朱鷺メッセ、新潟市

② Ashida R, Kuramoto CD、Expectations for the continued use of English-speaking simulated patients in medical education--Different years, different objectives, and different approaches、The 18th Japan Society for Medical English Education Conference、平成27年7月18日、岡山コンベンションセンター、岡山市

③ Ashida R, Kuramoto CD、Language and beyond---Effect of medical interviews with English-speaking SPs on non-native speakers of English in their first year of medical school 、Association of Standardized Patient Educators The 14th Annual Conference、2015.6.15、デンバー

④ 芦田ルリ、ネーティブ英語模擬患者による英語医療面接教育が日本の医学教育に及ぼす期待 ―各大学医学部における私たちの取組から―、第3回全国シンポジウム 日本の国情・2次医療圏の実情を考慮して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える2014、平成26年11月15日、秋田キャッスルホテル会議場

⑤ 倉本クリスティーン、芦田ルリ、The expanding use of trained English-speaking simulated patients in Japan 、The 17th Japan Society for Medical English Education Conference、平成26年7月20日、東京ガーデンパレス

⑥ 長谷川仁志、豊田祥子、D.ウッド、蓮沼直子、南園佐知子、寺田舞、芦田ルリ、倉本クリスティーン、ネーティブ英語模擬患者による主要症状鑑別診断・1年次必修英語医療面接OSCEのインパクト、The 17th Japan Society for Medical English Education Conference、平成26年7月20日、東京ガーデンパレス

⑦ 芦田ルリ、英語と臨床の統合で国際力を培う―1年次からの外国人SPとの医療面接―、シンポジウム：低学年からの重要

症例ベース臨床・基礎統合教育の展開を各分野実践事例から考える―情報爆発時代の全医学生に医学教育の質を保証するために―、第46回医学教育学会、平成26年7月19日、和歌山大学

⑧ 芦田ルリ、倉本クリスティーン、ネイティブSPとの医療面接――授業の一環として、第52回 医学教育セミナーとワークショップ in 秋田：ネイティブ英語SP参加型医療面接の可能性、平成26年5月24日、秋田大学

⑨ 芦田ルリ、倉本クリスティーン、ネイティブSPとの医療面接――その他大学の試み、第52回 医学教育セミナーとワークショップ in 秋田：ネイティブ英語SP参加型医療面接の可能性、平成26年5月24日、秋田大学

⑩ Ashida R, Kuramoto CD、Expanding the Use of English-speaking Simulated Patients in Japan、Standardized Patient Symposium、2014.3.3、MGH Institute of Health Professions、 Boston

⑪ Ashida R, Kuramoto CD、Medical Interview with an English-speaking Simulated Patient--A Real Encounter、USMLE Step 2 CS Workshop、平成26年2月12日、徳島大学（招待講演）

⑫ Ashida R, Kuramoto CD、English is not my first language--Training English-speaking SPs to develop English communication skills 、Association for Medical Education in Europe 2013、2013.8.27、プラハ

⑬ 芦田ルリ、倉本クリスティーン、長谷川仁志、外国人模擬患者の養成と活用― 英語での医療面接実習の効果と普及、第45回医学教育学会、平成25年7月27日、千葉大学

⑭ Ashida R, Kuramoto CD、Providing Authentic Experiences to Develop Medical Interviewing Skills ― Well-trained English-speaking Simulated Patients (SPs) Available for All Universities 、The 16th Japan Society for Medical English Education Conference、平成25年7月20日、東京ベイ舞浜ホテル会議場

〔図書〕（計2 件）

① Inoue M, Matsuoka R, Ashida R, Miyatsu T, Huffman J. English for Healthcare Communication、メジカルビュー社、2016(1月)、108

② 芦田ルリ、倉本クリスティーン、阪下和美、D.ウッド、長谷川仁志、「ネイティブ英語SP参加型医療面接の可能性」、新しい医学の流れ‘14春、三恵社、2015、31-62

〔その他〕

① 外国人模擬患者会のホームページ
Japan Association of Simulated Patients in English (JASPE)
http://www.sp-english.org/

② The Japan Times に活動記事掲載、Simulated patients pitch med students cultural curve balls
http://www.japantimes.co.jp/community/2016/01/27/issues/simulated-patients-pitch-japans-medical-students-cultural-curve-balls/#.V01r1PmLRD-

③ Victorian Simulated Patient Network (Australia) に活動を紹介、Making English-speaking SP Program a Reality in Japan、
http://www.vspn.edu.au/?page_id=1438

６．研究組織

(1)研究代表者
芦田ルり（ASHIDA, Ruri）
東京慈恵会医科大学医学部・准教授
研究者番号：10573199

(2)研究分担者
倉本クリスティーン
（KURAMOTO, Christine）
浜松医科大学医学部・准教授
研究者番号：20510126

(3)連携研究者
大滝純司（OTAKI, Junji）
北海道大学・大学院医学研究科・教授
研究者番号：20176910